

5. 学習関連

目次

5. 学習関連.....	1
5.1 研究及び研究室に関して.....	1
5.1.1 研究室の情報公開強化について.....	1
5.1.2 論文について.....	2
5.1.3 研究資金の補助について.....	4
5.2 授業の実態・内容.....	4
5.2.1 学生参加型の講義の充実.....	4
5.2.2 文系科目について.....	6
5.2.3 新たな講義の開講について.....	7
5.2.4 学生の意見を伝える機会について.....	8
5.3 カリキュラム.....	9
5.3.1 学部1年次の授業について.....	9
5.3.2 他大学との交流について.....	11
5.3.3 授業選択の自由について.....	11
5.4 単位・成績.....	12
5.4.1 成績評価について.....	12
5.5 国際教育関連.....	13
5.5.1 語学力について.....	13
5.5.2 すずかけ台での語学授業について.....	14
5.5.3 留学の門戸について.....	15

5.1 研究及び研究室に関して

5.1.1 研究室の情報公開強化について

提言概要	研究室の情報公開強化
学生の意見	研究室の研究に触れられる機会の充実
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部1-3年次において、研究室で行われている研究に触れる機会を増やした方が良いと思う。 ・研究室訪問の機会を増やして欲しい。研究生活に対する具体的なイメージがないまま学習意欲を維持するのは難しい。 (同様の意見が6件寄せられました)
現状分析	各研究室がHPで情報公開を行っていますが、公開される項目が統一されていないため、簡単な研究テーマの紹介文しか書いてないHPがあります。学部3年生が研究室所属の前に各研究室について調べようと考えても、研究室訪問やオープンキャンパス、研究室説明会など限られた機会しかありません。



5. 学習関連

学勢調査 2010 以前との比較	<p>学勢調査 2010 の「5.3.4 研究室同士の交流」において、研究室所属の学生同士の交流強化を提言しましたが、今回は学部生と研究室のつながりを強化するための提言を設けます。</p>
提言	<p>研究室の研究等を検索したい場合、学生には T2R2 や STARsearch をもっと利用するようにしてもらいたいです。しかし、学生が研究室を調べる際に知りたい情報というのは研究室の雰囲気や環境です。そのような情報を現在の各研究室の HP は十分提示していると言えない状態です。研究室の HP 上での情報公開を強化するよう働きかけることを提言します。</p>

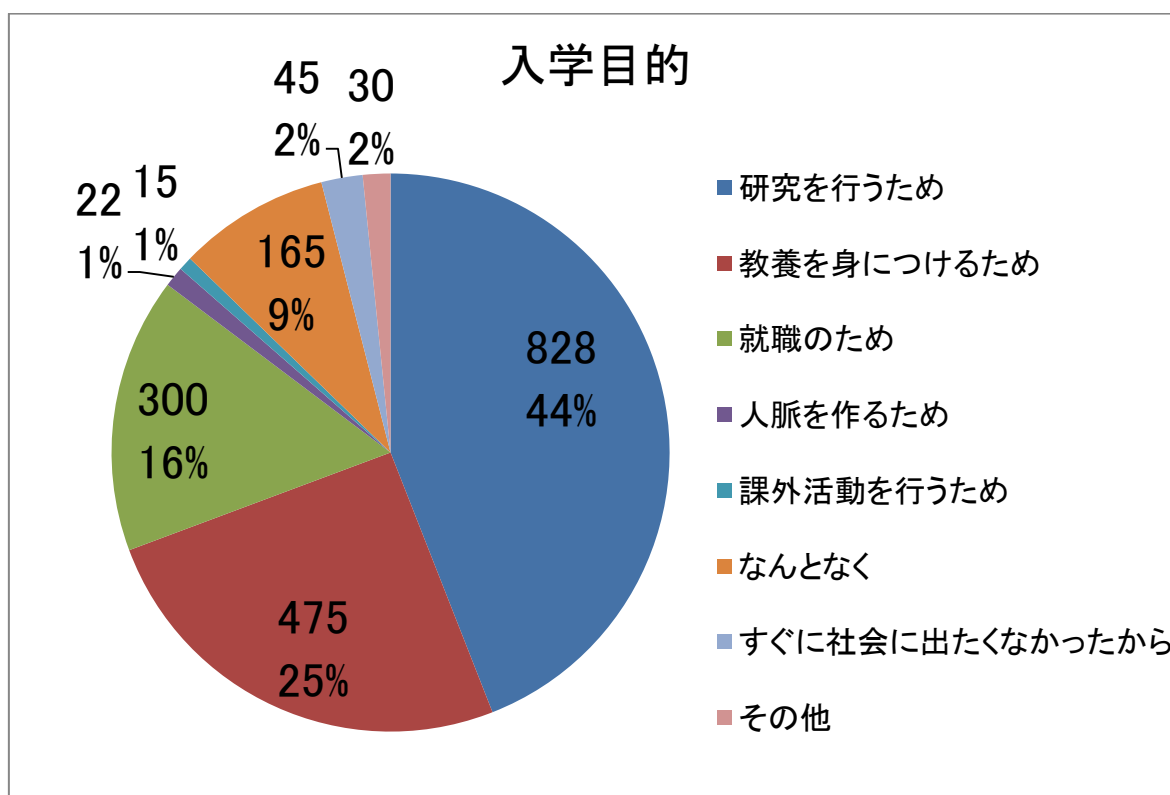


図 5.1.1-1 入学目的

5.1.2 論文について

提言概要	<p>論文の書き方についての授業の充実</p>
学生の意見	<p>論文の書き方を早い時期に学びたい</p>
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室所属以前において、テクニカルライティング等、考えをアウトプットする方法の教育が足りていないと感じる。いきなり研究室に配属され、はいどうぞといきなり理科系の文章がかけるはずがない。 ・理工系のための英語論文の書き方の授業を開設して欲しい



	<p>・ 1年次の教養科目が、研究室に入ってから役にたたなかったり、逆に研究室で必要な知識が3年次までに蓄えられていなかったりすることが多く有ります。もっと研究室に入ることを前提に1年次から学べるようになれば良いと思います。</p> <p>(同様の意見が9件寄せられました)</p>
<p>現状分析</p>	<p>現在論文の書き方を勉強することの出来る講義はいくつかの学科でしか行われていません。論文を書くことは、卒業するうえで避けて通ることができませんが、その論文の書き方を学ぶ機会が殆どありません。</p> <p>ただし、論文の書き方は研究分野によって大きく異なるため、それぞれの研究分野に合った論文の書き方を学ぶ必要があります。</p>
<p>学勢調査 2010 以前との比較</p>	<p>なし</p>
<p>提言</p>	<p>論文だけでなく、レポートの書き方や英語でこれらを書くときのコツなどについても、論文を書くまで学ぶ機会がありません。卒業論文を書き始める前に、論文の書き方を取り扱う講義を受講できるようにすべきであると提言します。</p>

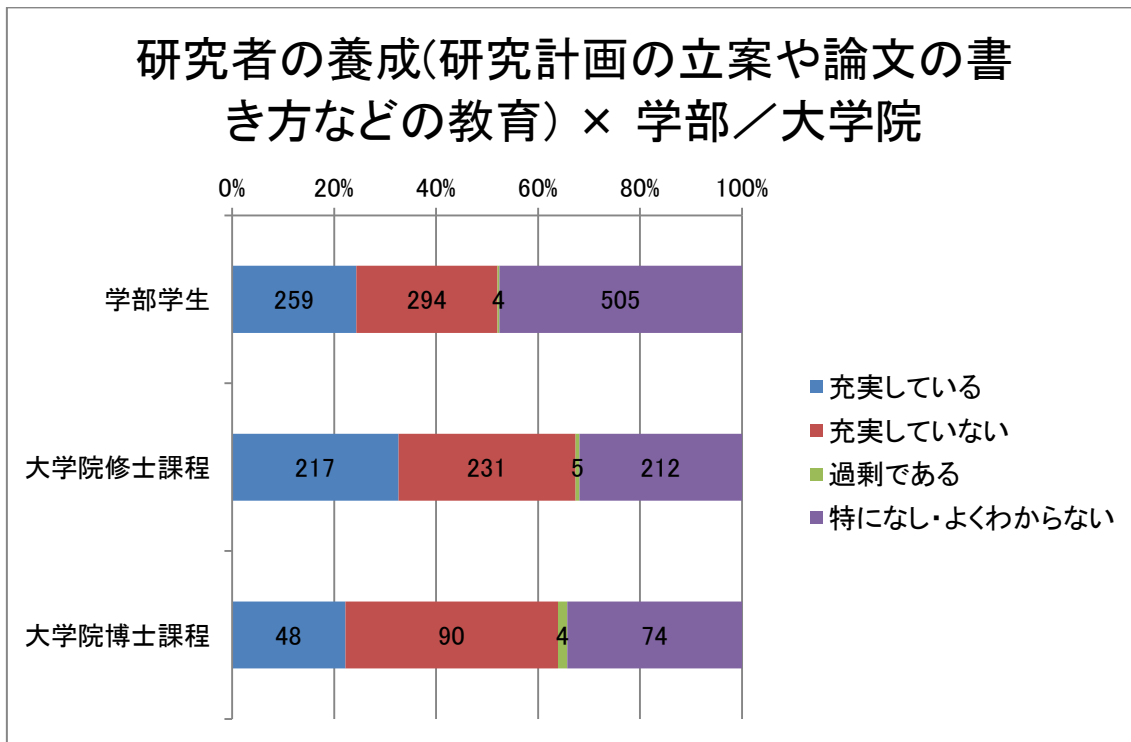


図 5.1.2-1 研究者の養成に対する印象 × 課程



5. 学習関連

5.1.3 研究資金の補助について

提言概要	研究資金の補助について
学生の意見	研究資金を補助して欲しい
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・学会や学外研修等への参加費の援助が欲しい。・博士課程に対する経済的支援に乏しい。 (同様の意見が合計6件寄せられました)
現状分析	<p>研究を行う学生にとって研究資金の獲得は死活問題です。特に、海外で研究を行う必要がある学生にとっては、負担が大きくなっていくでしょう。研究資金を獲得できる研究室であれば良いのですが、そうでなければ経済的事情によって研究活動に支障が出てくる学生も存在すると考えられます。</p> <p>これらの意見を踏まえ、学生支援課へのキャンパスミーティングで、学会発表の参加費等の研究資金を補助して頂くことは可能かどうか、質問を行いました。その結果、現在大学では、教員に対する研究資金も少なくなっている状況なので、学生へ学会発表の参加費等の補助を行うことは難しい、という回答を頂きました。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	大学が教員に配分できる研究資金が減っている現状では、学生としては研究資金の獲得のために自ら努力する他ないようです。研究費を補助する代わりに、奨学金の拡充などで学生への経済支援をして頂きたいと思えます(「3.1.4 奨学金について」参照)

5.2 授業の実態・内容

5.2.1 学生参加型の講義の充実

提言概要	コミュニケーション能力の向上
学生の意見	ディスカッションやディベートなどの学生参加型の講義の充実
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・もう少し学生参加型のディベートのような授業を増やして欲しい。・学生参加型の授業が少なすぎる。・もっとコミュニケーション能力を養成するような授業を行うべき。・留学生など他国の学生と議論するような授業がもっとあってもいいと思います。 (同様の意見が23件寄せられました)



<p>現状分析</p>	<p>座学の授業が多く、ディスカッションやディベートを行う授業が殆どありません。しかし、ディスカッションやディベートを行うには事前に学生も準備が必要です。</p> <p>大学内で学生間の議論が活発ではなく、また学生同士の交流も少ないです。</p>
<p>学勢調査 2010 以前との比較</p>	<p>学勢調査 2010 では「5.1.2 学生の学習に取り組む姿勢・意識、および視野の広さ・多様性の受容の向上」において、主体性・視野の広さを広げることを目的に提言されましたが今回はコミュニケーション能力の向上を目的に再度提言します。</p>
<p>提言</p>	<p>ディベートやグループワークというのは他人に自分の意見を発表する場であり、他人とのコミュニケーションを図る場でもあります。大規模なプロジェクトや研究で他人と意思疎通や議論を行う上でコミュニケーション力は大きな力になります。昨今の社会事情において他人とのコミュニケーションは欠かせないものになっています。学生のコミュニケーション能力向上のため早急に学習課程を見直すべきであると提言します。</p> <p>大半を占める座学の講義を、TA 等の補助教員を増やすなどの方法で、講義の担当者と学生がコミュニケーションを取りながら進めていく形に変えていくべきであると提言します。</p>

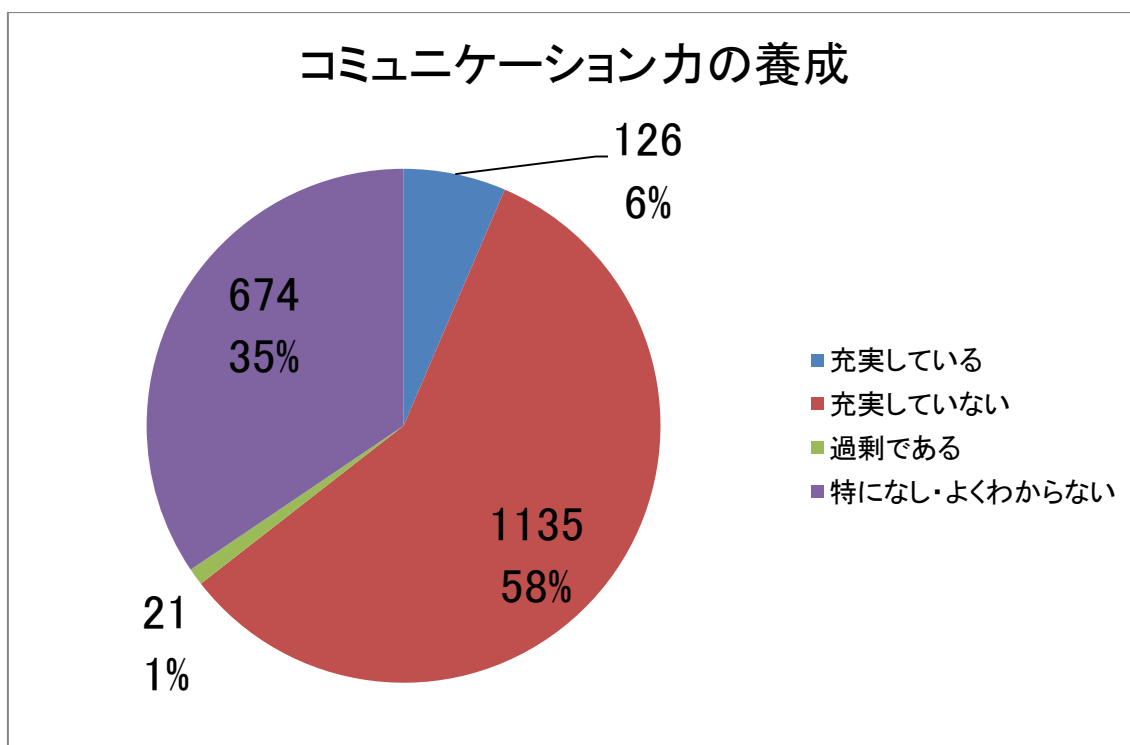


図 5.2.1-1 コミュニケーション力の養成に対する印象



5. 学習関連

5.2.2 文系科目について

提言概要	文系科目の内容の見直し
学生の意見	文系科目は講義数が多いですが、魅力的な講義が少なかったり成績のつけ方に大きな差があったりします。
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・ただの消化試合となっている文系科目が多すぎる。・もっと学生が受けたくくなるような教員・授業内容を検討すべき。・文系の科目が入門的すぎて面白みにかける上、内容が重複することが多い。・文系科目で、単位の取得しやすい科目に人が集中するのをどうにかして欲しい。 (同様の意見が 11 件寄せられました)
現状分析	<p>選択することの出来る文系科目は沢山ありますが、内容が被ってしまっているもの、授業に出ていなくても簡単に単位が取れてしまうものがあります。</p> <p>文系科目に興味を全く持たない学生が多く、授業の取り組みに大きな差があります。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 では「5.6.2 文系科目への要望」において文系科目の充実を提言しましたが、今回は新規講義の開講ではなく文系科目の内容の見直しを行うことを提言します。前回の提言で述べられていた学生のニーズの明確化に関する調査は今回の学勢調査で行うことは出来なかったため、改めて文系科目に関して学生のニーズの調査が必要であると考えます。
提言	<p>文系科目の中には、内容が重複していたり受講人数に偏りが見られたりするものがあります。文系科目の講義数や内容について検討し直し、カリキュラムを再編することを提言します。文系科目は導入、基礎、発展の順にステップアップするようにカリキュラムが組まれています。講義の目的ごとにグループ分けを行い推奨する講義の組み合わせを示し理想的な文系科目への取り組み方を学生にもっと伝えていくべきであると考えます。</p> <p>どの講義を取ればどの分野に関する理解が深まるのかということを確認に示し学生の学習計画の補助となる情報を発信していくことが大切です。講義の科目が多いため単位の取り易い講義に学生は集中しがちですが、講義ごとの目的や連携をはっきりすることで学生も自分の興味のある講義を選べるようになるはずです。このためには成績評価の統一が欠かせませんのでこのことを踏まえてカリキュラムの再編をすべきであると提言します。</p>



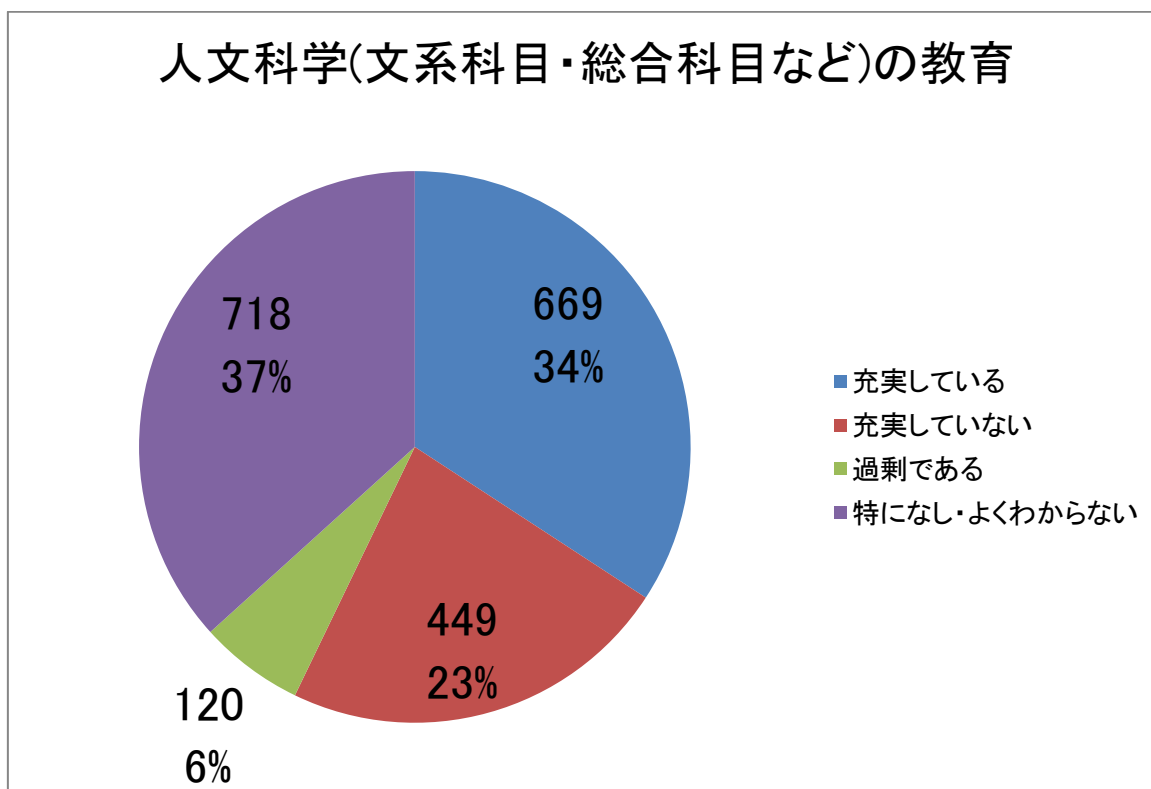


図 5.2.2-1 人文科学の教育に対する印象

5.2.3 新たな講義の開講について

提言概要	新規講義の開講
学生の意見	既存の枠にとらわれない多種多様な講義の開講
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主ゼミによる単位申請などが可能になって欲しい。 ・ 工系基礎科目を俯瞰できるような、「理系の知識のつながり」を数学、生物、地学、科学、物理、情報にまたがって感じられる授業が欲しい。 ・ プレゼンのやり方・課題の設定の仕方についての授業は早い時期からやってもいいと思う。 ・ 学生同士で意見を交換し合うような授業を文理問わず増やすようにする ・ 学生個々人の健康管理の観点から考えても、非常に有益であると思うので、ぜひとも「食育教育」ひいては、調理法や料理の歴史を含めた講義の開講を望みます。(以下略) <p>(新しい講義を要望する意見が 6 件寄せられました)</p>
現状分析	現在学部の講義でプレゼンテーションや意見交換を行うものは十分ではありません。また、類や学科を跨いで意見交換を行えるような講義は文系科目などの一部講義しかありません。



5. 学習関連

	<p>また、一部の意見で料理の授業の開講を挙げるものがあります。料理は自然科学と密接に結びついているので、理工学系の授業と関連づけられるのではないかと考えます。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	<p>社会が必要であるプレゼンテーション技術や意見交換の準備として、プレゼンテーションのやり方を学べる講義や、類や学科と関係なく意見交換や議論を行える講義を、新たに開講すべきであると提言します。特に議論を行いながら講義を進めていくという形のもの少ないので、新たに開講すべきであると強く提言します。</p> <p>NHK 白熱教室 JAPAN で取り上げられた宇佐美誠教授（社会理工学研究科）の講義のように、様々な意見を集約して結論を導き出すというのは非常に大切な力であり今後の人生において役立つと考えられます。</p> <p>またブレインストーミングや KJ 法など新たな発想や思考を生み出すことを目的とした講義の開講も提言します。イノベーション創出を目指し意見交換を行うことで自分の研究や学習内容に関して新たな価値を見出すことが出来るのではないかと考えます。</p> <p>料理を科学的観点から学習するという授業の開講を提言します。また、それにあたって、生協と協力し、産学連携などを検討してみたいかがでしようか。</p>

5.2.4 学生の意見を伝える機会について

提言概要	学生の意見を授業担当者や類・学科・専攻責任者に伝える仕組みの設立
学生の意見	学生の意見を伝えられる仕組みについての要望
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートにも書いたのですが、全くフィードバックされていないので、英語教員に対する生徒の声を集めるシステムを作りたいです。 ・なぜ学生が指導教員を評価する制度がないのか、またなぜその学生の声がかんげんじられているのか理解できない。大学は教員のみが研究を行う場ではなく、学生に対する指導も同時になされるべきである。現在の教員の評価方法では、学生を指導するインセンティブが働かない。結果として、教育力のない（次世代の研究者を育てることのできない）自己中心的な教授ばかりになってしまっている。 <p>（講義のカリキュラムや授業内容に関する意見が 14 件寄せられました）</p>



現状分析	<p>受講した講義に関する意見を、直接的に講義担当者に伝える仕組みはありません。学勢調査では多数の意見のみピックアップして議題にすることができないため、学科のカリキュラムに関する意見等に対応することができていません。各学期の終わりに授業アンケートが実施されていますが、結果が実際に授業に反映されているのかということについてアンケート結果及びフィードバックが公開されている大学公式サイト http://www.cradle.titech.ac.jp/hyoka/index.html を確認した限りでは、具体的にどの講義がアンケート結果を受けて授業内容を変更したのか不明で、またアンケートのフィードバックが遅すぎるといった意見が教員の意見の中に見られます。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	<p>学勢調査 2010 の「5.4.1 授業評価アンケート」で授業評価アンケート結果の情報公開強化を求める提言をしましたが、特に改善が見られなかったため今回は授業評価アンケートの内容の見直しを提言します。</p>
提言	<p>授業のカリキュラムから各々の授業の内容まで、学生の意見は多岐にわたっています。現在の授業評価では学生の意見を汲み取れているとは言い難いので、授業評価システム自体を見直すべきであると提言します。学生の声がしっかりと講義の担当者や類・学科・専攻の講義責任者に届くような仕組みを是非とも実現して頂きたいです。</p>

5.3 カリキュラム

5.3.1 学部1年次の授業について

提言概要	1年次のカリキュラムの改革
学生の意見	類と学科の連携を取って欲しい
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学部1年のとき受けた講義は、当時は重要性がわからなかったためあまり勉強できなかったが、研究室に所属してから必要になったため勉強し直すことになった。基礎科目がどのように役に立つのか具体的に示して欲しかった。 ・1年次の基礎教育が2年次以降まったく役に立っていない。1年次から積極的に専門課程の授業を採らせるべきである。 ・理工系の基礎教育、特に1年次の理工系科目について、学生の大半が工学部所属に対し、授業担当の理学系の割合が高いと思う。1年次に取得すべき能力を学部ごとではなく類ごとに明示し、それを達成できるよう授業担当者との意思疎通を積極的に行うべきと思う。 <p>(学部1年次の授業内容を変えて欲しいという意見が16件寄せられました)</p>



5. 学習関連

	た)
現状分析	<p>学部1年次の基礎科目が必ずしも学科が望んでいる講義内容となっていないわけではないため、学科の講義に必要な知識が欠落した状態で学部1年生が学科に所属するということが起きています。</p> <p>図5.3.1-1が示すように、学部1年生の半数近くが、専門の科目を増やすことが学習意欲の向上に有効であると考えています。しかし、現状では学部1年次のカリキュラムの中で取ることの出来る専門科目は少ないです。</p>
学勢調査2010以前との比較	なし
提言	<p>類と学科の講義内容のミスマッチを減らせるように、理工系基礎科目の内容を見直し、その後の学科の講義と上手く合うように調整すべきであると提言します。</p>

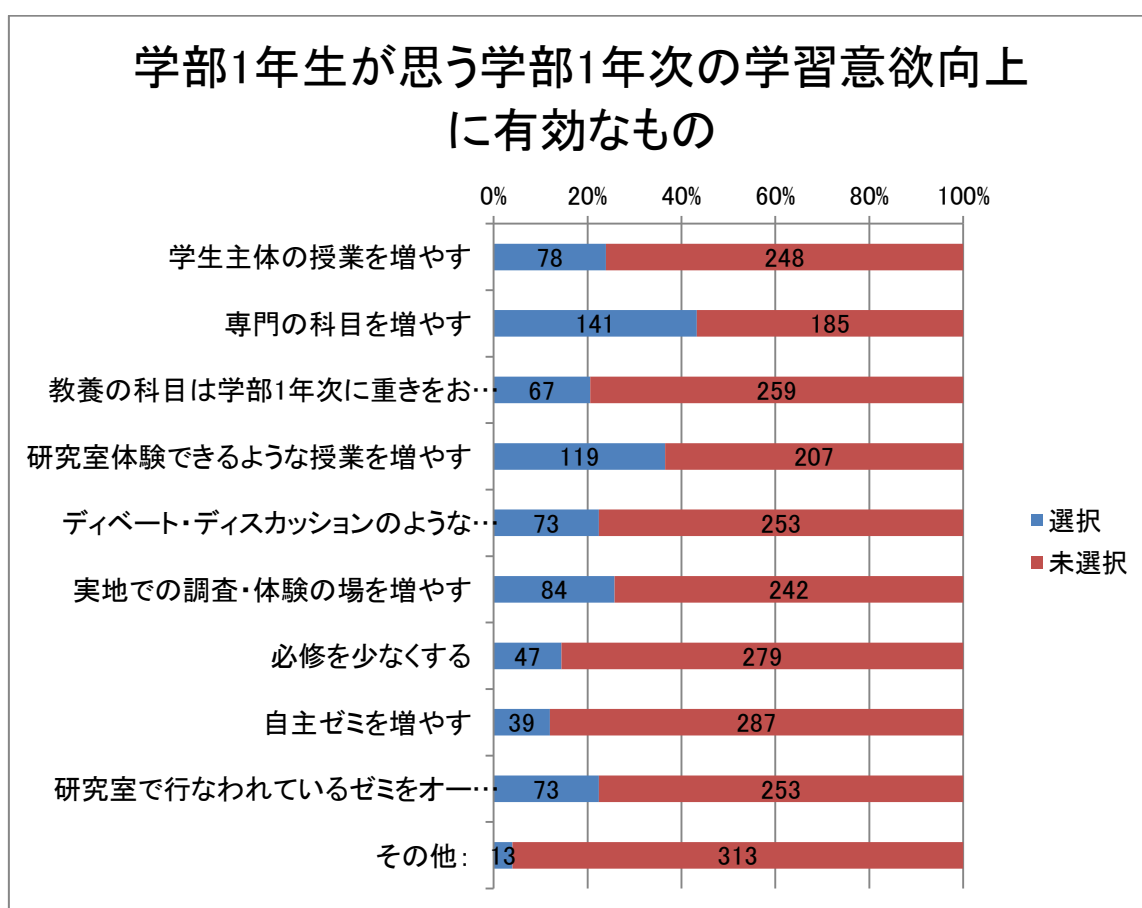


図 5.3.1-1 学部1年次の学習意欲向上



5.3.2 他大学との交流について

提言概要	他大学との交流
学生の意見	他大学との交流制度の充実
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・四大学連合という良いコースがあるにもかかわらず、それを活かさないカリキュラムになっていると思います。 ・現在、四大学連合複合領域コースの単位は「理工系広域科目(他学科)」という扱いになり、単位としてはほとんど役に立たないため、履修するインセンティブが弱い。例えば、一橋大学なら文系科目と互換できるようにするなど、単位を取るメリットを増やしてほしい。そうすればもっと履修者が増えると思う。 ・四大学や他大学との単位互換制度はあるが、カリキュラムが忙しく、また、他大学との距離も遠く、断念せざるを得ない感じがする。
現状分析	<p>四大学連合複合領域コースや慶應義塾大学などと単位互換制度が実施されていますが、各大学間の移動に時間がかかり、本校の時間割との関係で受講しにくくなっています。</p> <p>学科によっては、複合領域コースの修了認定基準を満たすことが、非常に難しいです。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	<p>学勢調査 2010 の「5.5.1 他大学との交流の活性化について」では他大学との交流制度の充実を提言しましたが、より一層の充実が必要であると考えられるので、今回も改めて提言します。</p>
提言	<p>四大学連合複合領域コースの東工大で単位認定可能な講義数は学科により大きく異なるため、学科ごとの差の改善が必要です。また、東工大の時間割との調整をやりやすくするために、他大学で受講可能な講義数をさらに増加させられるように交渉すべきであると提言します。</p>

5.3.3 授業選択の自由について

提言概要	授業選択の自由度について
学生の意見	授業の選択の幅を広げて欲しい
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる講義を増やして自分の興味のある分野に関する知識を増やせるようにして欲しい。 ・授業の選択における自由度が低すぎる。 ・類や学科、専攻にとらわれず、様々な先生の授業を履修したい。 ・柔軟性のあるシステムが欲しい。 ・東工科大学内で複数学位の履修ができればと思う。 <p>(同様の意見が 8 件寄せられました)</p>



5. 学習関連

現状分析	<p>学科の必修科目が多いため、複数学位の取得は困難です。</p> <p>1 年間に取得できる単位の上限があるため、学科の授業を受けながら他学科の授業まで受けに行くことは難しいです。</p> <p>学科の修了要件は、多くが 124 単位であるため、単位数の上では他学科の講義を受講する余裕があります。ただし、1 単位は通常 45 時間の学習を必要とするため、学習時間を確保することは相当な負担になります。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	なし
提言	他学科の講義を受講する際の不安を低減し履修を促進するため、講義の情報公開を強化することを提言します。

5.4 単位・成績

5.4.1 成績評価について

提言概要	成績評価の公平性について
学生の意見	成績評価が教員によって大きく異なっています
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 類は特に人数が多く、同じ授業であってもクラス分けが行われて、クラスごとに別の先生が授業を担当していることが多いが、先生ごとに評価基準が大きく異なるということが結構あるのでどうにかして欲しい。 ・ 授業の成績評価についてですが、過去問をほぼそのまま出す授業が非常に多いことについて、生徒の学習意欲を下げ、戦略的コミュニケーションの上手い人が学業成績という基軸で有利に評価されることは僕にはフェアではないように思えます。 <p>(同様の意見が 4 件寄せられました)</p>
現状分析	教員によって出席を重視したり試験の成績を重視したりと、成績の評価基準がまちまちです。
学勢調査 2010 以前との比較	学勢調査 2010 の「5.7 単位・成績」において、成績評価基準の公開・標準化について提言しましたが、今回は具体的な講義についての成績評価基準の見直しについて提言します。
提言	成績評価の不公平感を減らす、または不公平をなくすために、出席を成績評価で考慮するのか、複数クラスがある講義の成績評価基準はどう統一するのかということを、再度検討することを提言します。



5.5 国際教育関連

5.5.1 語学力について

提言概要	英語の授業について
学生の意見	<p>図 5.5.1-1 に示すように、本学の半数の学生は語学の授業が充実していないと考えています。英語の授業に関する意見が合計 40 件寄せられました。英語の授業のレベルを上げて欲しい、またはレベル分けをより細かく行って欲しいというものがあります。また英語の授業や学部・大学院ともに英語を用いた専門の講義を増やして欲しいという意見も寄せられました。</p>
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業をもっと充実させて欲しい。 ・TOEIC などによりレベル別の授業をして欲しい。 ・留学生と交流する授業を増やせば英語学習のやる気が増すのではないか ・英語（語学）の授業を増やして欲しい。 ・英語で行う（専門の）授業を増やしてもよいのではないか（学部・大学院ともに）。 ・Please provide more English based courses. ・英語のできる人にとっても、できない人にとっても満足いくシステムにして欲しい。
現状分析	<p>本学の学生の英語のレベルは幅が広く、学生の語学力に合わせた授業が困難となっています。その結果、英語の授業が充実していないと考える学生が多数います。また、現在は学部生に対して英語を用いての専門科目の授業は行われていません。大学院生に対する英語による専門の講義も少なくなっています。</p> <p>教務課へのキャンパスミーティングで英語の授業について話を聞いたところ、講義室の関係から困難ではありますが、より細かい英語のクラス分けを検討中だそうです。また、学部生への授業ではしっかりと理工系基礎知識を身につけるためには母国語が適切であると考え、英語での講義は行っていないそうです。大学院に関しては、英語での授業が多く行われているようです。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	<p>前回の調査時も、今回と同様に語学教育の強化の必要性が挙げられています。</p>
提言	<p>個々の語学力に合わせた授業を展開するためにも、類・クラスの枠を取り払い語学のクラス分けを行うことを提言します。また、語学に対するやる気上昇のために、早い段階から留学生との交流の場を多く設けたり（タンドムの募集や ICS の利用など）、留学するという選択があることを周知していく必要があります。</p>



5. 学習関連

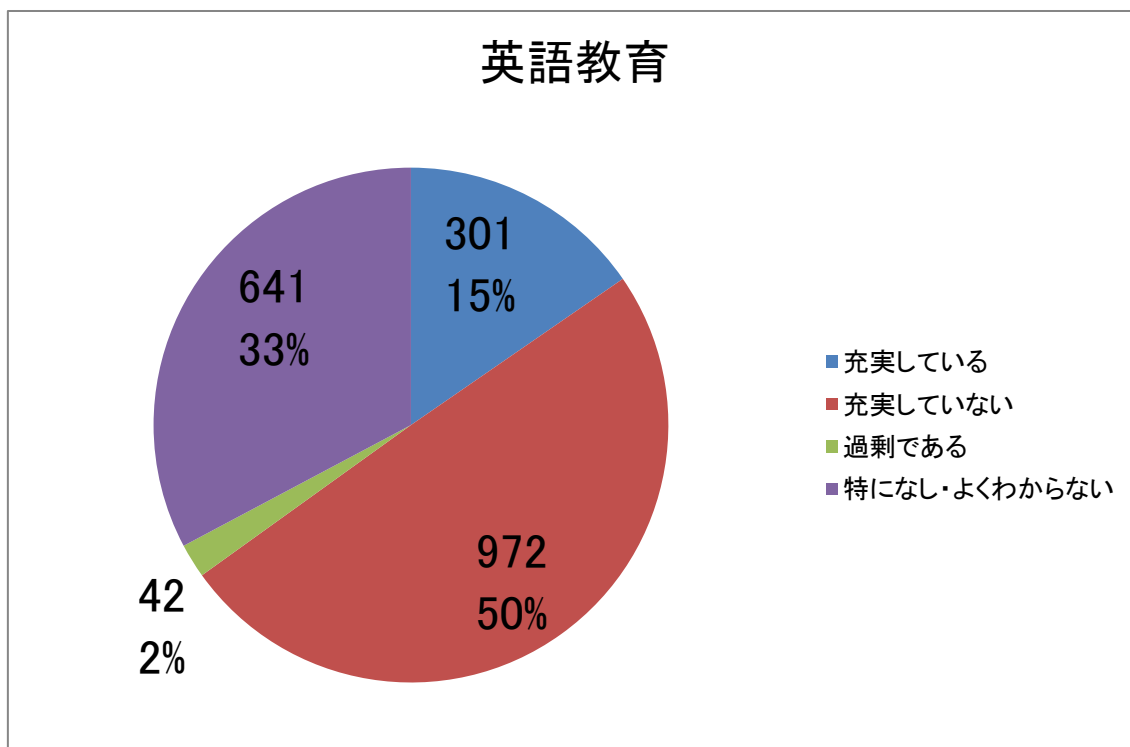


図 5.5.1-1 英語教育の充実度

5.5.2 すずかけ台での語学授業について

提言概要	すずかけ台での語学授業について
学生の意見	すずかけ台での語学授業に関する要望が合計 5 件寄せられました。すずかけ台での語学授業を増やして欲しいとのことです。
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・すずかけ台での語学の授業を増やして欲しい。現在もあるが人数制限等で取れないことがある。 ・すずかけ台での国際コミュニケーション選択科目（英語口頭表現など）が欲しいです。
現状分析	<p>すずかけ台では語学の授業が行われていますが、大岡山のように充実していません。その結果として、やる気があっても思うように語学学習ができないような環境になっています。</p> <p>教務課へのキャンパスミーティングですずかけ台での英語の授業について話を聞いたところ、現在は履修者が少なく授業を増やすのは難しいとのことでした。ただ、遠隔講義については検討しているそうです。</p>
学勢調査 2010	前回も今回と同様に、すずかけ台で語学の授業を提供して欲しいという



以前との比較	意見があります。
提言	大岡山の水曜日には語学の授業が豊富にあるように、週に一日、すずかけ台で語学の授業が充実した日の設置検討を提言します。

5.5.3 留学の門戸について

提言概要	留学の門戸を広げて欲しい
学生の意見	図 5.5.3-1 に示すように、本学の約 3/4 の学生は留学をしたいと考えていますが、金銭・語学等の問題によりその多くは留学できずにいます。カリキュラムに自由が利かず、留学が難しいという意見も寄せられました。
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに自由が利かず忙しいため、留学のための準備（英語など）をする時間がない。 ・準備に 1,2 年かかること、必修科目が多くあること、4 年時は 1 年間研究すること、を考えると卒業を延ばさずに留学するのが難しい。 ・留学の支援体制があまりない。
現状分析	<p>留学に興味を示す学生は多いですが、様々な問題からその実現は困難となっています。</p> <p>教務課へのキャンパスミーティングで留学について話を聞いたところ、まず語学の基準は留学先大学が受け入れるかの問題が大きいので、本学の中で基準を変動させてもあまり意味はないそうです。奨学金に関しては、全体の合計が決まっていますそれを振り分けている状態なので、各人の額を増やすのは難しいようです。また、学科ごとのカリキュラムは各学科が決めており、それを変えることは難しく、積極的に留学を奨励している学科では独自にカリキュラムを組んでいるようです。留学する学生の多くは大学院で卒業を 1 年伸ばして留学しているようです。</p> <p>語学力をつけたいと考えている人は、近年開始された TASTE という語学留学プログラムが利用できるようです。また、TOEIC と同様に TOEFL の受験機会を学生に与えることを検討中だそうです。</p>
学勢調査 2010 以前との比較	前回も今回と同様に、留学の門戸を広げてほしいという意見が寄せられています。
提言	学生が海外生活を経験することは学生にとっても大学にとってもプラスになると考えられるので、各学科で留学しやすいようなカリキュラムを設定することを提言します。また、TOEFL の受験機会を学生に与えることで、学生が目標をもって語学の勉強に励み、留学しやすい環境が構築されていくことを願います。



5. 学習関連

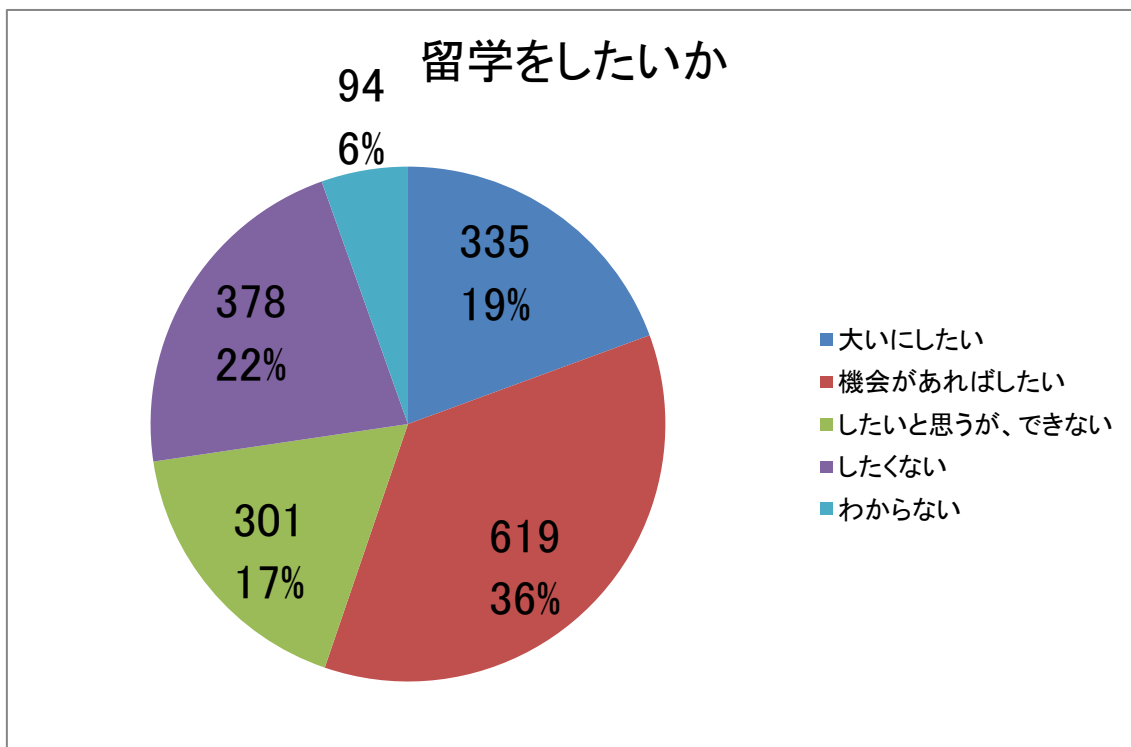


図 5.5.3-1 留学をしたいかどうか

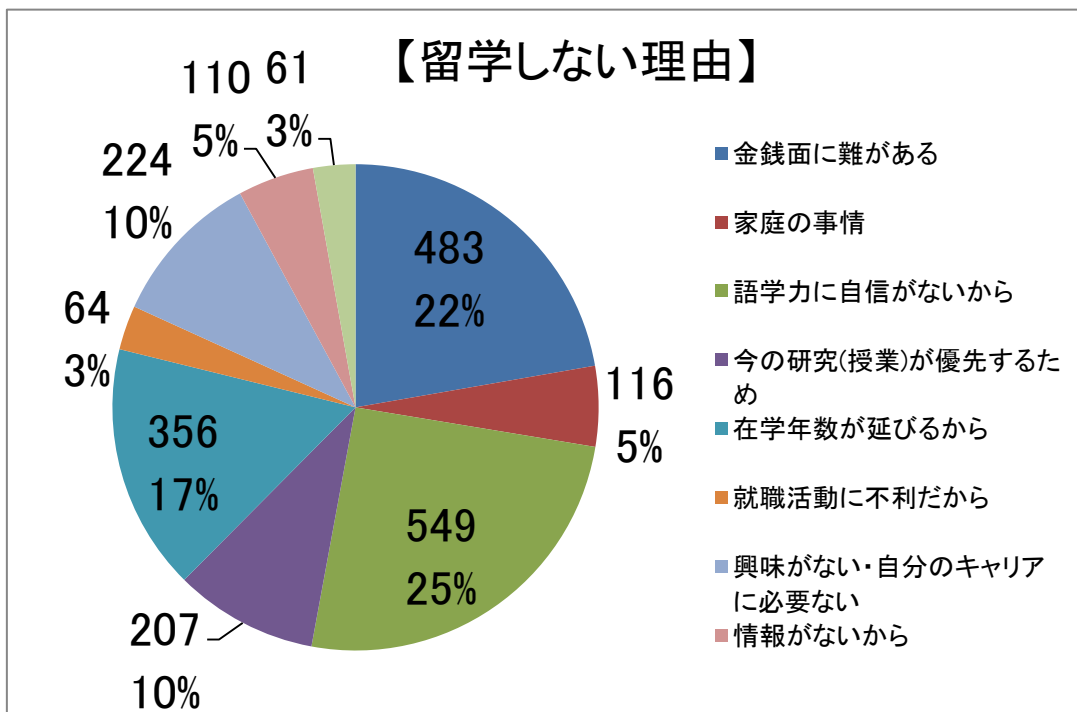


図 5.5.3-2 留学をしない理由

